

13・2 神奈川県におけるふたごレジスターの維持と医療記録の連結

神奈川県立こども医療センター

松井 一郎

研 究 目 的

神奈川県立こども医療センターでは、先天異常の遺伝研究・成因研究の目的で県下に出生するふたごのレジスターを開始した。許可をえて人口動態出生票および死産票および死産票のふたご分を転写し、データバンクを作成した。他方ではこども医療センター入院患児の病歴データバンクに多数の先天異常疾患が入力されており、両バンク間の医療記録連結から、先天異常を有するふたごの組数を描出してきた（昨年度までの研究）。

本年度は、1) データバンクの言語変換による拡張性の問題を処理し、2) 引き続き医療記録連結の追加（昭和52、53年）を行なうことを目的とした。

研 究 成 果 と 考 察

昭和51年までのこども医療センター入院病歴は使用コンピュータの機種（神奈川県保健教育センター、TOSBAC 5100）から、コボル言語でシステムを作成していた。最近の医療界における電算機利用の現状は、データベースの効果的利用が可能なマンプス（医用）言語の採用が急速に増大している。こども医療センターの将来の電算機利用がマンプス言語による医療データベースの設定となる点を配慮し、昭和52年から入院病歴システム、その他をマンプス言語によるシステムに変更していた。他方双生児データバンクは当初よりコボルによるシステムで、言語変換の問題が生じた。今回は入院病歴データ（ASCIIコードを使用したマンプス言語で入力されている）を、EBSDICコード使用のコボル言語に変換したうえで両データバンクの医療記録連結を行なった。最近の電算機技術の急速の進展は多種類の言語やシステムを提供している。他方マイコンの手軽な利用、TSS等データ通信の利用度が非常に容易となっている。言語間、システム間の相互の利用、互換性、拡張性を高めておくこと

はバンクの効果的利用の基本である。

言語変換により、昭和52年、53年の医療記録連結が可能となった。表1に従来の成績を含めて対象数と連結結果を示した。この4年間で14,369人の入院患児と4,394人の双(三)生児の照合、連結を行なったことになる。150件269人が連結された。連倍対について諸条件参照し、最終的には病歴の確認を経て連結の正・誤を判断する。132人(49%)が正しい連結がなされていた。これらの双(三)生児対は先天異常の有無、卵性判断を経て一致率計算基本資料となる(昭和52年度本報告および次年度以降)。

要 約

こども医療センター入院病歴データベースのシステム変更にともない、マンブス言語(ASCIIコード)よりコボル言語(EBSDICコード)への変換システムを作成し、入院病歴データベースと双生児データベースの医療記録連結を行なった。

過去4年間の連結成果は対象数14,369名の入院患児、4,394名の双(三)生児の照合連結から、150件269人の連結人数を得た。正しい連結と確認できたものは49%であった。

文 献

- 1) 松井一郎：ふたごと先天異常の研究。こども医療センター医学誌，7：245-248，1978.
- 2) 松井一郎，家島 原：多生児の疫学と「ふたご研究」概説，周産期医学，9：1923-1930，1979.

表1. 医療記録連結の対象数と連結の結果

年	入院患児 データベース	双生児 ※ データベース	連結件数	連結人数	正しい連結	誤った連結
昭和50	3,395人	50年 1,423人	25件	43人	21人	22人
51	3,404人	50・51年 2,449人	42	76	40	36
52	3,724人	50・51・52年 3,474人	39	73	32	41
53	3,846人	50・51・52・53年 4,394人	44	77	39	38
合計	14,369人	4,394人	150	269	132	137

※双生児データベースは、それぞれの年で入力総数について照合を行なう。



検索用テキスト OCR(光学的文字認識)ソフト使用
論文の一部ですが、認識率の関係で誤字が含まれる場合があります



要約

こども医療センター入院病歴データベースのシステム変更にともない, マンプス言語 (ASCII コード) よりコボル言語 (EBCDIC コード) への変換システムを作成し, 入院病歴データベースと双生児データベースの医療記録連結を行なった。

過去 4 年間の連結成果は対象数 14,369 名の入院患児, 4,394 名の双(三)生児の照合連結から, 150 件 269 人の連結人数を得た。正しい連結と確認できたものは 49%であった。